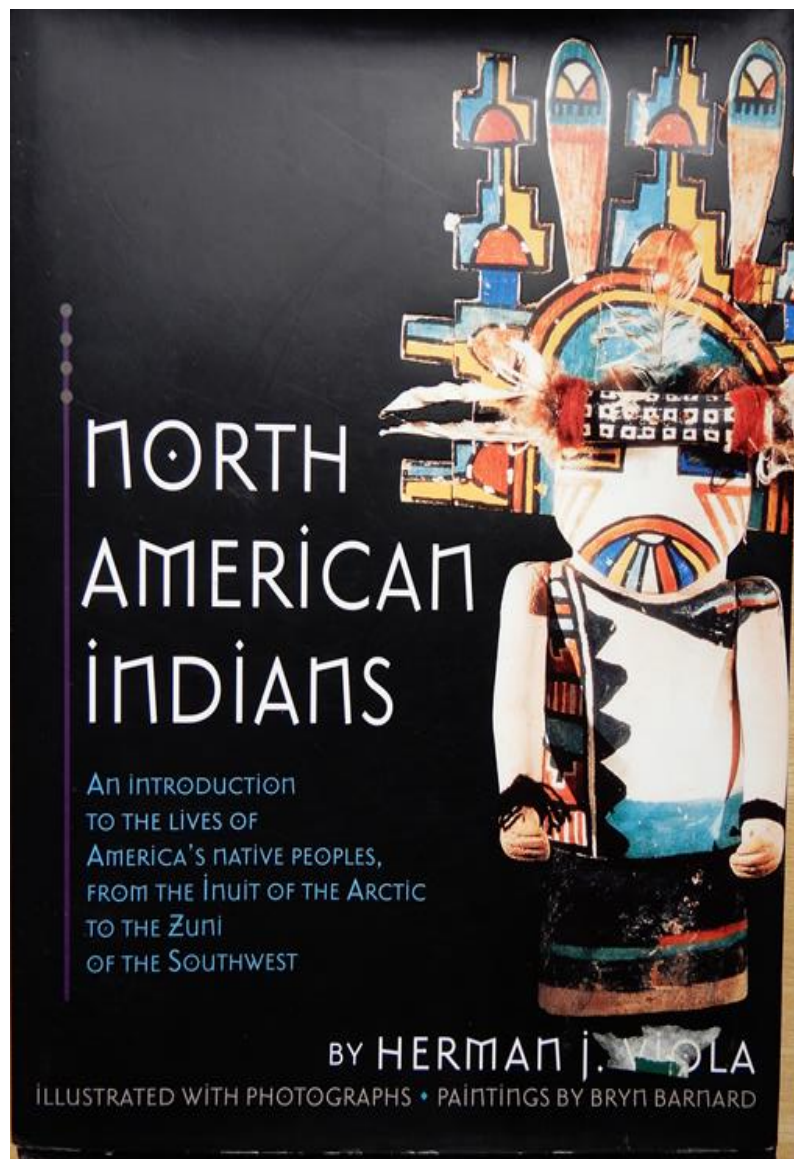




HERMAN J. VIOLA

NORTH AMERICAN INDIANS



ILLUSTRATIONS BY BRYN BARNARD

CROWN PUBLISHER, INC., NEW YORK

Seiji Suzuki

North American Culture Areas



北極のイヌイト族から
南西部のズニ族まで、
アメリカ原住民の生活様式
の紹介

1492年にCristpher Columbusがアメリカに漂着した時に、彼はヨーロッパ人が誰もそれまで会ったことのない人達に遭遇した。インドに着いたと考えた彼は、この人達をインディアン(インドの人達)と呼んだ。

多くの部族、とりわけ、大西洋岸に住んでいた部族は、天然痘、栄養失調、そして、インフルエンザ、こうしたものに彼らが最初に接触した結果、完全に崩壊してしまった。

THE SOUTHEAST REGION AND SOME SELECTED TRIBES

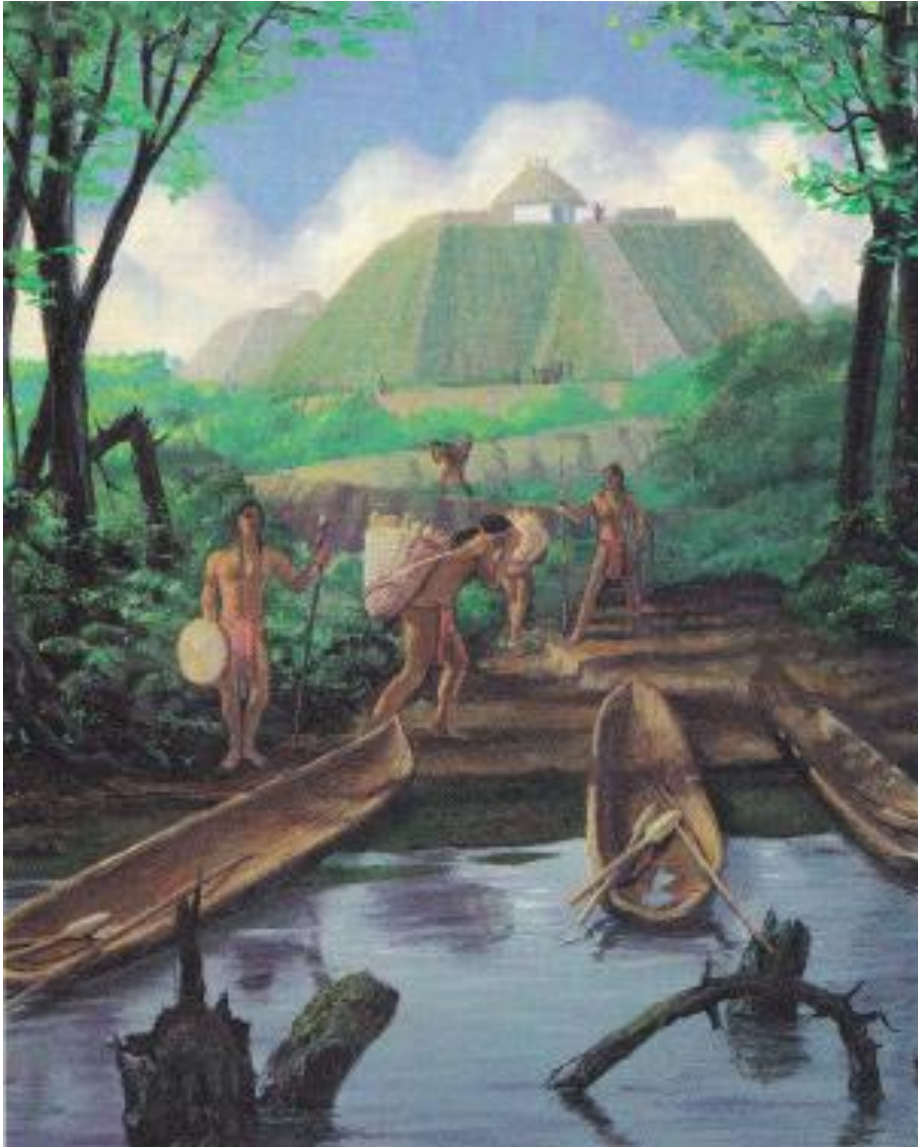
THE SOUTHEAST: A CHEROKEE VILLAGE





チェロキーの家は、粉にされたかきの貝殻で作られたのろできちんと塗られていた

丘の上の村：ミシシッピー族の町



16世紀に Hernando De Sotoに遭遇したインディアン達は、コロンブスの時代以前に数百年にわたり、合衆国の南東地域に栄えたミシシッピー文化圏に属していました

Moundville(丘の上の村)は、今日、アラバマ州に当るBlack Warrior River の土手の上にあった集落

寺院の建てられた大きな丘

丸太で出来たカヌー

チェロキーの伝説が、何故、彼らの故郷には沢山の丘や谷があるかということの説明をしています。この言い伝えに寄れば、大水が大地を覆っていました。そして、最終的に水が引くと、大地は、とても湿っており、沼地で誰もその上をうまく歩くことが出来ませんでした。だから、動物たちは、鳥たちに大地を飛んで行って、どこか乾いた土地のある場所を 教えてくれるように頼みました。その動物たちを 助けた鳥の一羽が、Grandfather Turkey Vultureでした。彼は、とても大きな羽根を持った巨大な鳥でした。ところが、彼が、チェロキーの人たちが望んだ土地に着くまでに、彼はとても疲れてしまい、彼の翼の先が大地を擦っていました。彼の羽根が羽ばたいたときは、谷を掘っていたのです；彼が羽根を上にも羽ばたいたときには山を作っていたのです。虹の上の自分たちの場所でこれを見ていた動物たちは、彼がその大地全体にわたり丘とそして谷を

作ってしまう前に彼を呼んだのです。ところが、チェロキーには遅すぎたので、彼らの故郷は山の奥になってしまいました。



シュロチクの筒で出来た吹き矢を使っている
チェロキー族の狩人



キヤド族：手彫りの木の像



▲ チェロキー族の隣人であるカトウバ族が作った装飾された粘土でできたポット

▼ このシュロデクの皮で出来たかご、これもまたカトウバ族の作ったものだが、これは東南地方全体で使われていた籠の典型的なものである。



チェロキー族の亀の甲羅で出来たガラガラ。女性の踊り手は、こうしたガラガラを、Green Corn Ceremonyのような祭りの時には、自分たちの膝の回りにつけていた。そして、自分たちの動きを注意深くコントロールして、上手な踊り手になると、非常にタイミングよくこのガラガラの音を出すことが出来た。

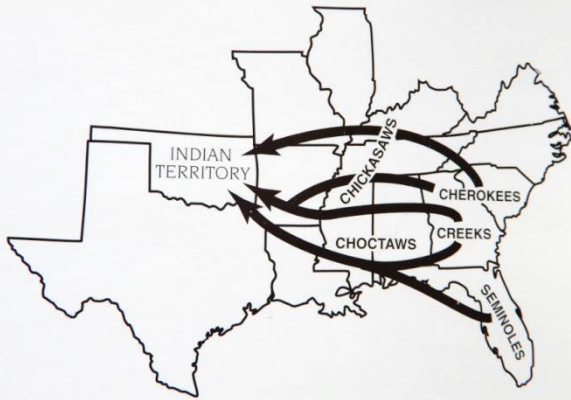


このゲームは今のラクロスの原型のようなものだ。チェロキー族はそれを“戦闘の小さな兄弟”と呼んで居た



▲ ボールゲーム 1834年に、George Catlinにより描かれたこの絵は、二つのChostaw の集落の間で競われたもの。ゴールは左にある。そのゴールの前で選手達我争ってボールの取り合いをしている。

THE TRAIL OF TEARS (涙の街道)



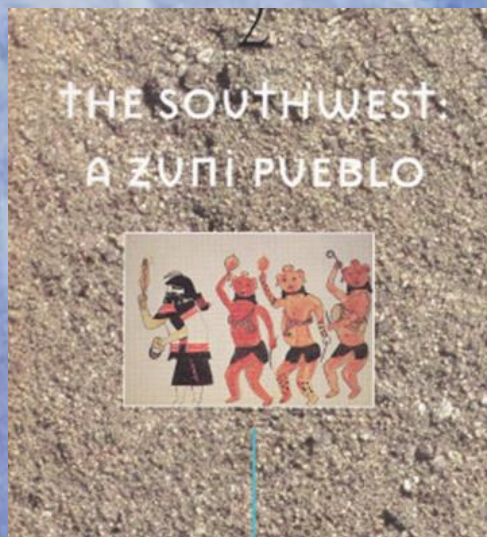
D _a	R _e	T _i	ᄒ _o	O _u	i _v
S _{ge} O _{ka}	K _{ge}	Y _{gi}	A _{go}	J _{gu}	E _{gv}
V _{ha}	P _{he}	A _{hi}	K _{ho}	F _{hu}	C _{hy}
W _{ha}	ᄒ _{ie}	P _{li}	G _{jo}	M _{hu}	A _{ju}
S _{ma}	A _{me}	H _{mi}	S _{mo}	Y _{mu}	
ᄒ _{na}	t _{ha}	G _{nah}	ᄒ _{nc}	H _{ni}	Z _{no} A _{nu} O _{nv}
T _{iqua}	ᄒ _{que}	P _{qui}	V _{quo}	ᄒ _{quu}	E _{quv}
U _{sa} ᄒ _s	A _{re}	B _{si}	t _{so}	C _{su}	R _{sv}
L _{da} W _{ta}	S _{de} ᄒ _{de}	J _{di} T _{ti}	A _{do}	S _{du}	O _{dv}
ᄒ _{da} C _{ta}	L _{te}	C _{tti}	ᄒ _{to}	ᄒ _{tu}	P _{tv}
G _{ta}	V _{to}	I _{ts}	K _{too}	J _{tsu}	C _{tsv}
G _{wa}	ᄒ _{we}	O _{wi}	ᄒ _{wo}	J _{wu}	G _{wv}
ᄒ _{va}	B _{ve}	A _{yi}	K _{yo}	G _{yu}	B _{yv}

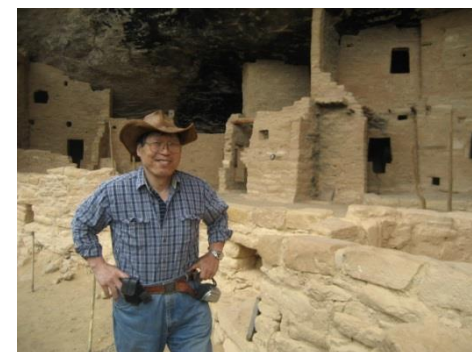
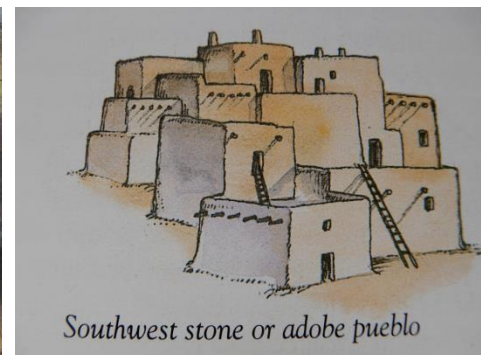
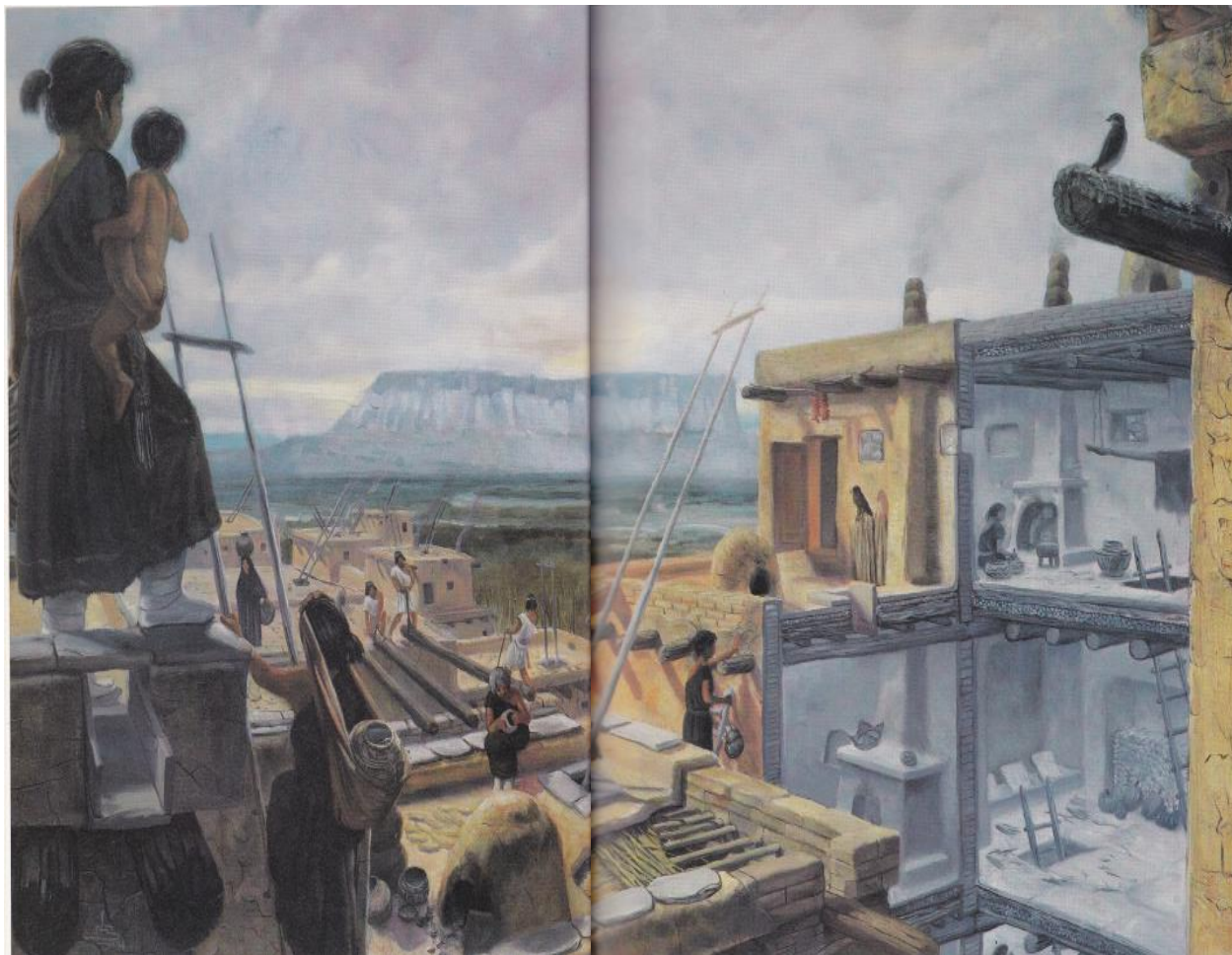


チェロキー族だけでなく、チョクトー族、クリーク族、チカワソー族、セミノール族、サク&フォックス族、そして、マイアミ族がその対象となった。

アメリカ南東部に居住していた部族は、強制的に移住をさせられ、チェロキー族はこの時、西部のオクラホマに行かされた。病気と、食料、適当な衣料の不足から、たいへんな事態になり、4,000人のチェロキー族の者が、この800マイルにもなる行程の間に亡くなった。チェロキー族の人達は今でも、この彼らが通った道を、“嘆きの道”、あるいは、Trail of Tears(涙の街道)と呼んでいる。

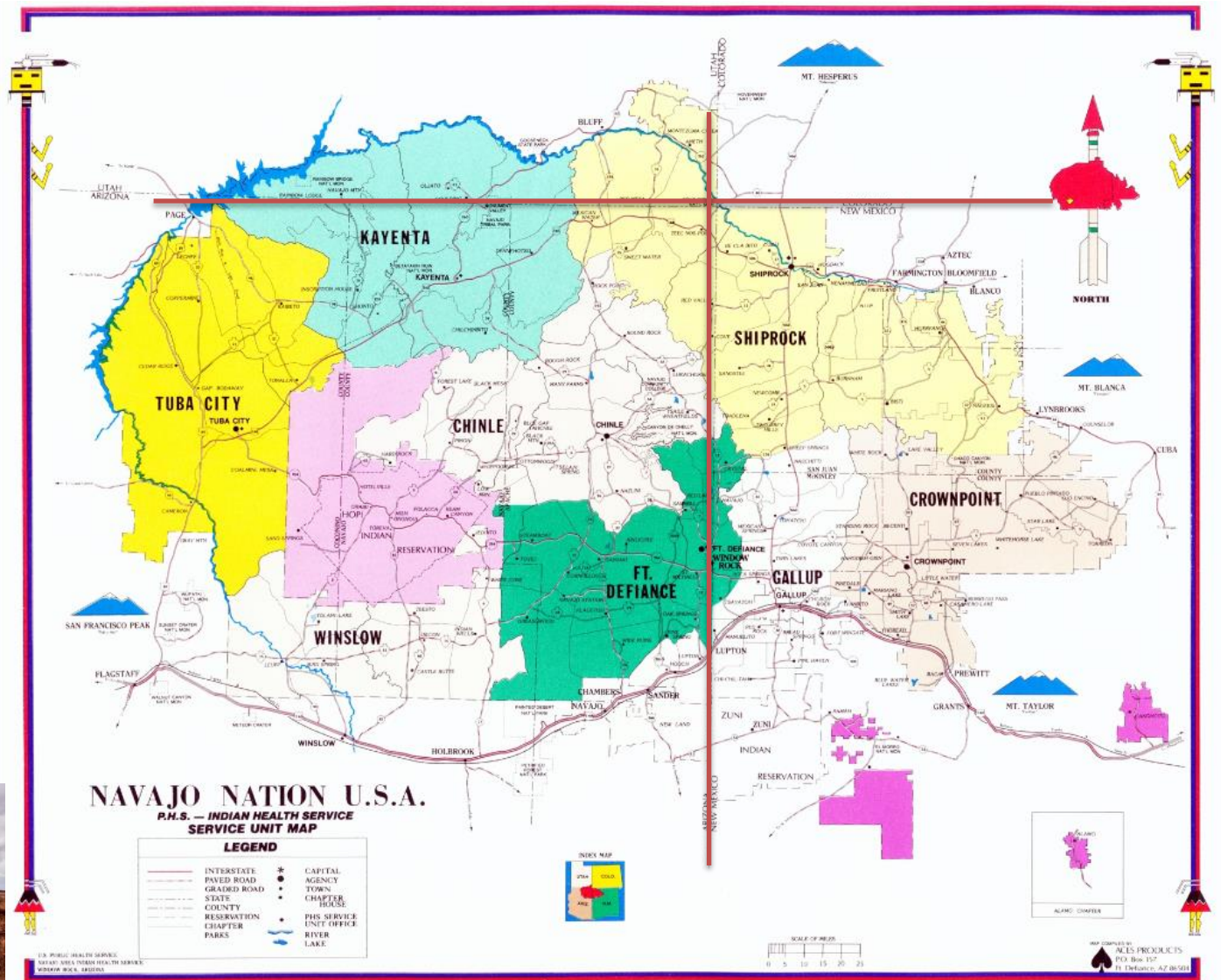
THE SOUTHWEST REGION AND SOME SELECTED TRIBES

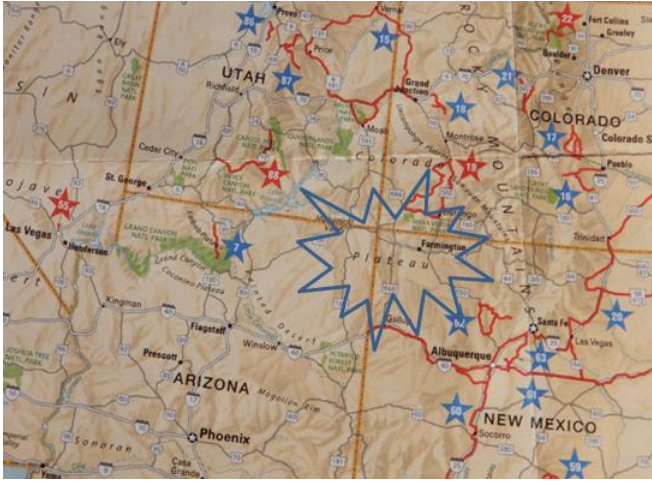




ズニ族は、アドーベと呼ばれる泥と麦わらを混ぜ、天日で乾かしたもので作られた長屋に住んでいました。

NAVAJO NATION U.S.A.





Navajo族

“大きな平原の人々”

1863年 Kit Carsonに指揮されたアメリカ軍に敗れた。

Navajo Code 第二次世界大戦中に
3,000人程度が従軍

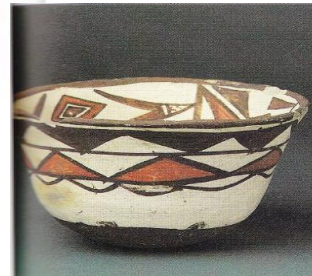
アメリカ51番目
の州



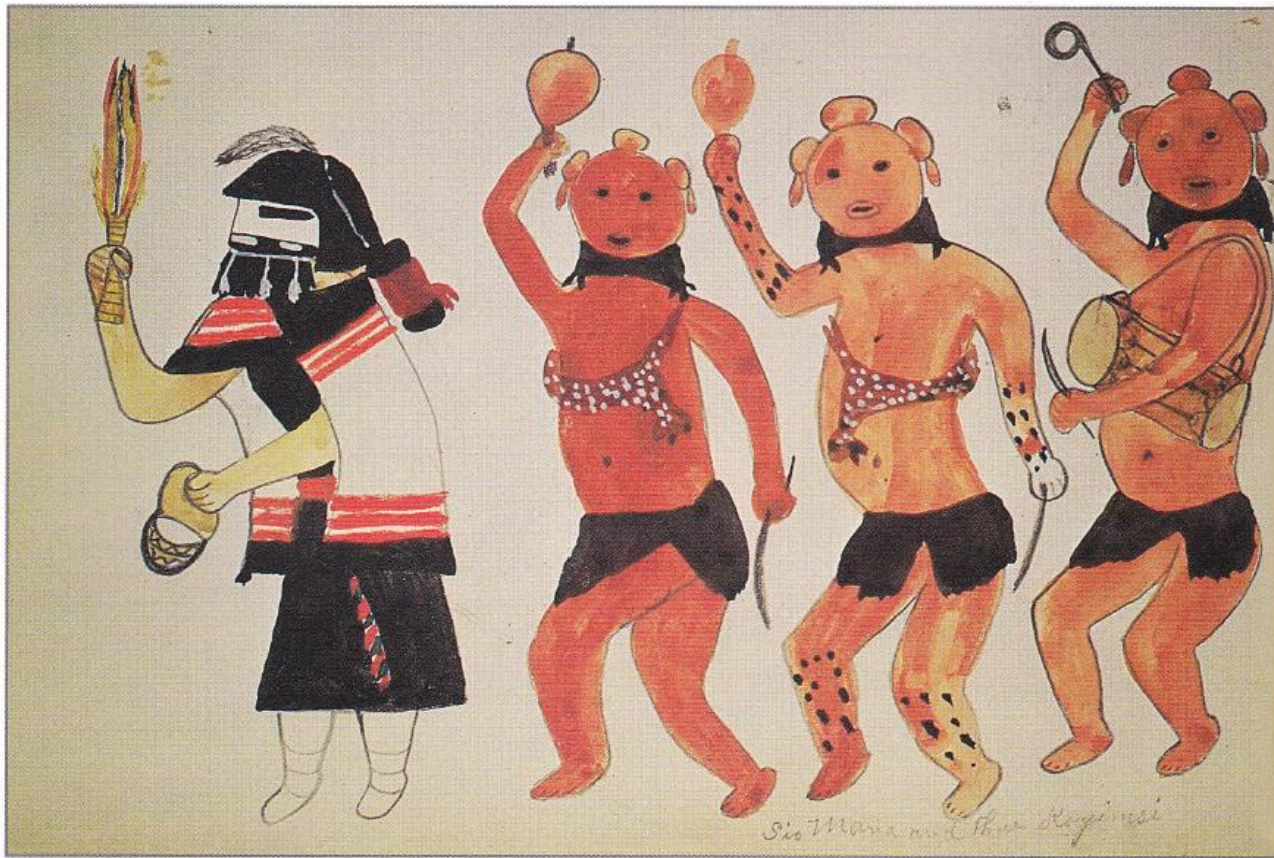


ホピ族の少女が粉を挽いている。蝶々の髪型は未婚の女性の伝統です。一度結婚すると女は、彼女らの髪を編まされた。

ズニ族の食器。左側、その地域特有のデザインで装飾された土製の入れ物、右側、陶器製のひしゃくとスプーン。真ん中の小さなスプーンは鳥の姿の模様が入っている。



小さなズニ族の、熊の石の彫り物。こうした小さな動物の彫り物は物神と呼ばれたもので、これを持っていると加護され、あるいは、幸運が持たされると信じられていた



カチナ,またはカチーナとは主に
[アメリカインディアン](#)のホピ族が
 信仰する、超自然的な精霊のよ
 うな存在。[アリゾナ州フラッグス](#)
[タフ](#)郊外の[サンフランシスコ](#)
[ピーク](#)近くの聖なる山に住んでい
 ると言われている。



儀式での踊りの様子を示しているHopi族は、独特なkachina の装束を身につけた kachina組織のリーダーにより指揮されていた。

異なったKichinaの社会の組員は、ズニ族の宗教的な生活と相まった精神を言い表すような独特の習慣を持っていた。

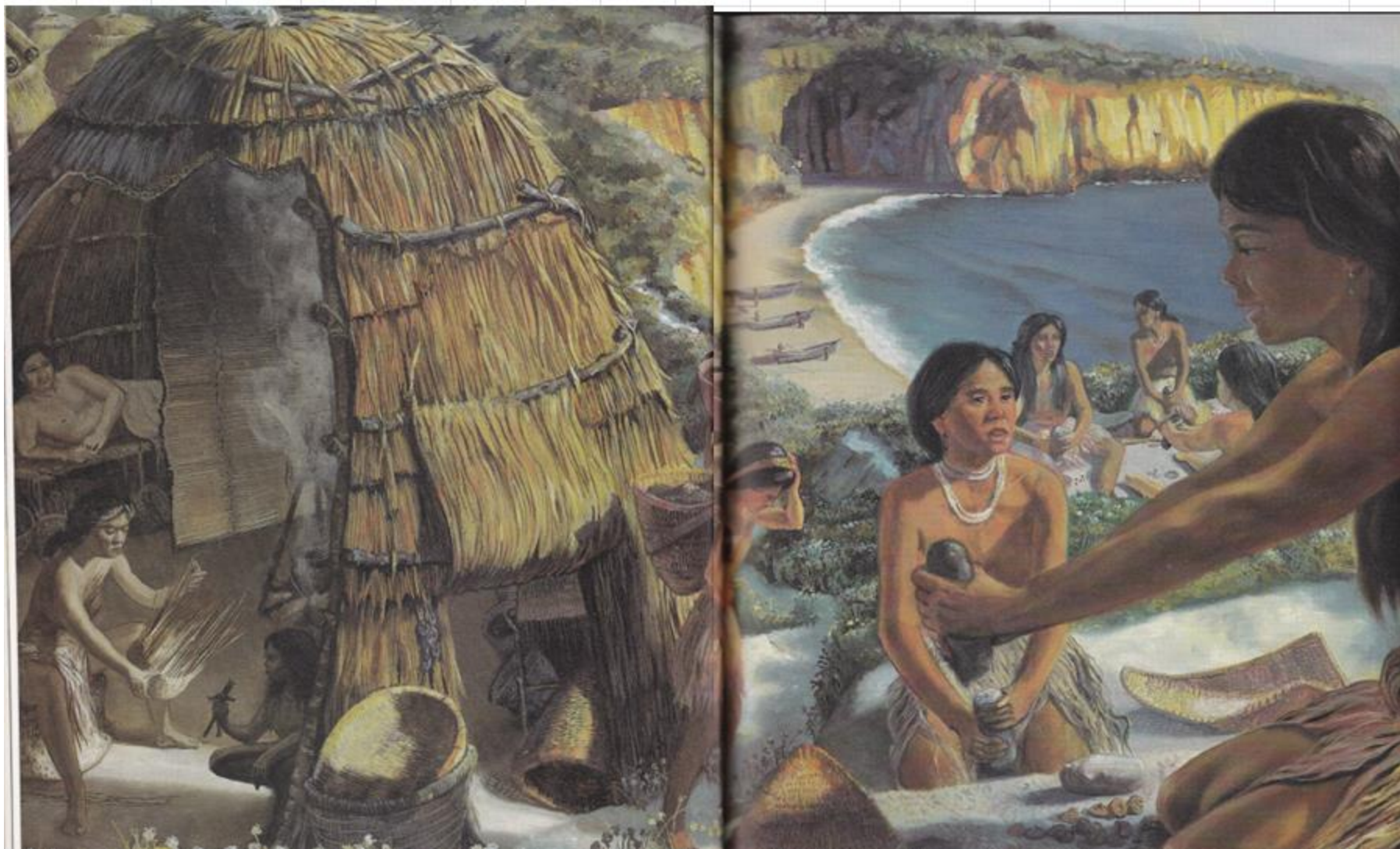
CALIFORNIA AND THE WEST AND SOME SELECTED TRIBES



THE WEST: A CHUMASH THATCHED HOUSE



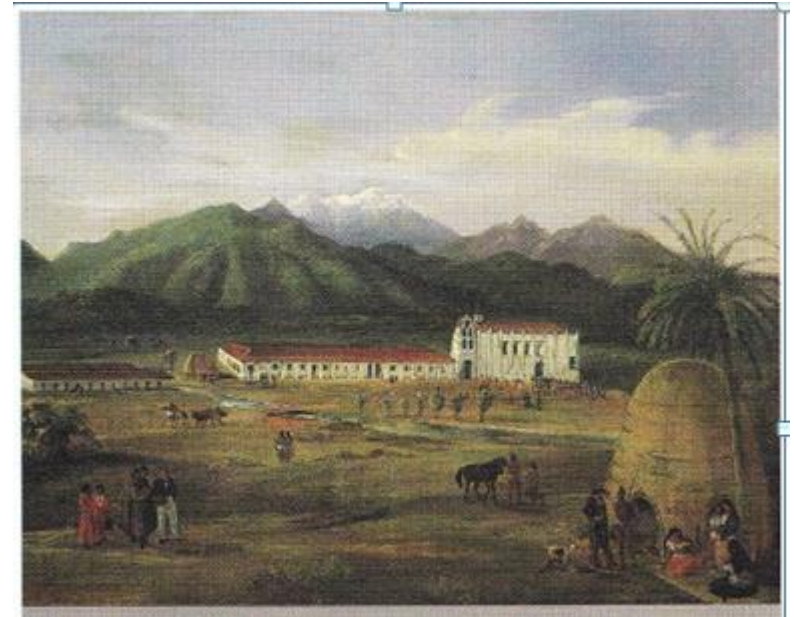
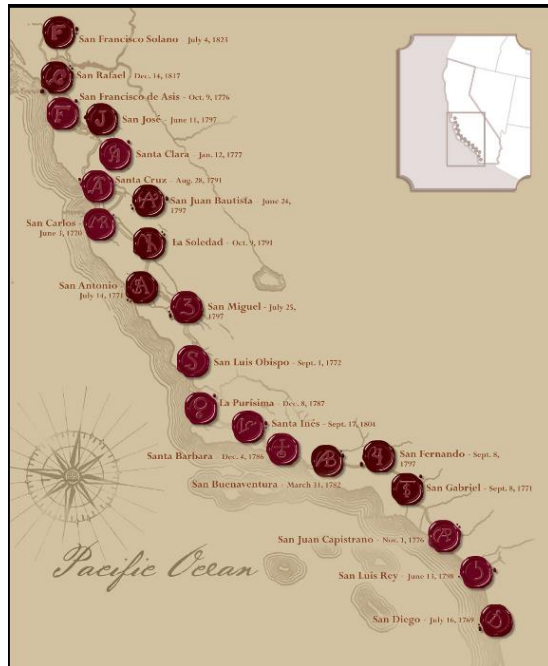
(チュマシュ族のかやぶき屋根の家)



チュマシュ族は彼らの家を、アシ、ガマ、シダ、そして、海草などを使って建てた

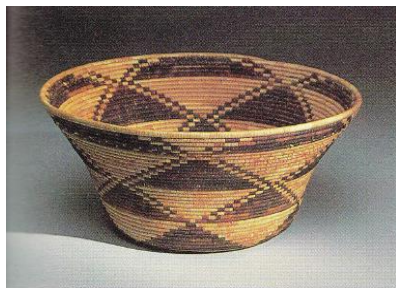
伝道施設

伝道施設は、幾つかの目標を持っていた。彼らは、スペインの規則を北アメリカに普及させたが、しかし、彼らは、“文明開花”をもくろみ、そして、インディアン達をキリスト教徒に改宗させる一方では、彼らの労働力を経済的に利用しようとしていた一ことを意図していた。

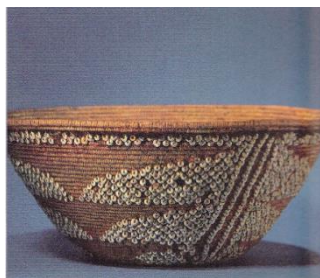


伝道施設のインディアン達は繰り返し、支配者に対し反逆した。最も成功した反抗が1680年に起きた。この時、ニューメキシコのサンタフェ近くに住んでいたプエブロのインディアンが500人近くのスペイン人を殺害し、そして、残りの者を彼らの地域から退却させた。この伝道施設のシステムは、1821年にメキシコがスペインから独立したときに消滅して行った。

カリフォルニアでは、太平洋岸の600マイルに及ぶ、サンディエゴとサンフランシスコを21の一連の伝道施設が繋がっていた。



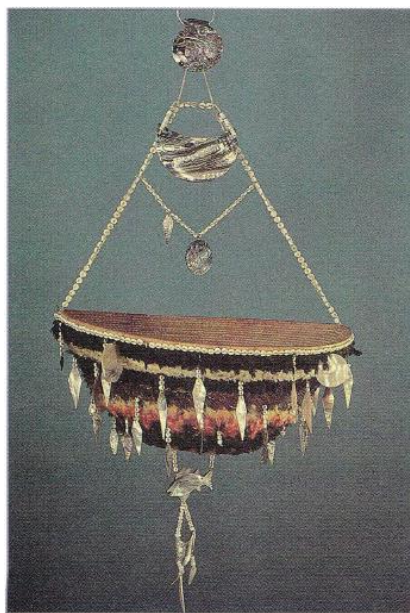
祝宴用の籠



葬儀の籠



小さなこの籠は、大体7歳になったら子供にあげられ、もし、これを無くしたり、どこかにやってしまうと、その子供には、大きな災いが起こるとされた。



太陽の籠



高原の部族 : ネツパース族

(ピアスされた鼻)



ネスパース族は、自分たち自身は、
Nee-me-poo、“本物の人々”という意味、
と呼んでいた。

ネスパース族の部族は東はモンタナからワイオミングにいたるバッファローたちの住んでいる山々まで旅をする様になった。

ルイスとクラークが彼らの旅の経路でアメリカ大陸の分水嶺を越えるときに、彼らはネツパース族に遭遇し、そして、食料を与えられ、非常な歓待を受けた。

素晴らしい馬を大量に保有

THE NORTHEAST REGION AND SOME SELECTED RIBES

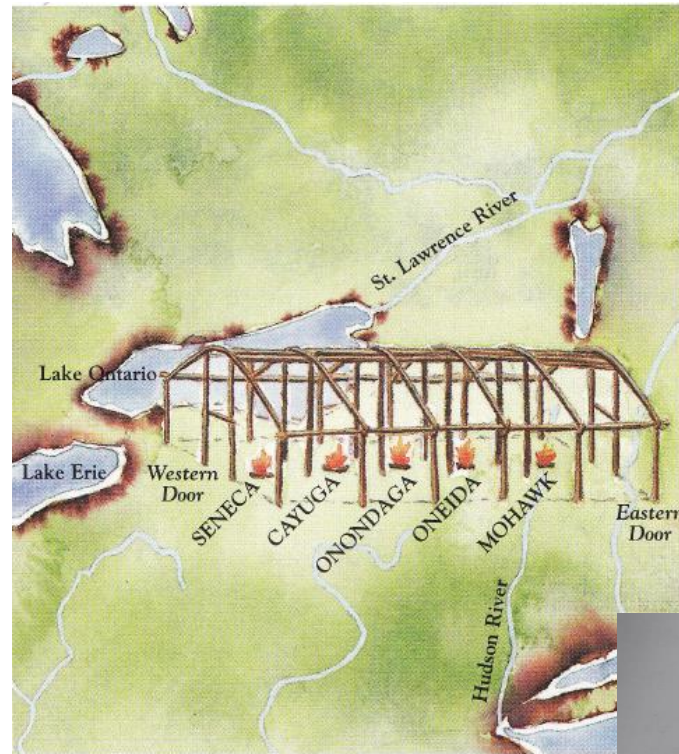




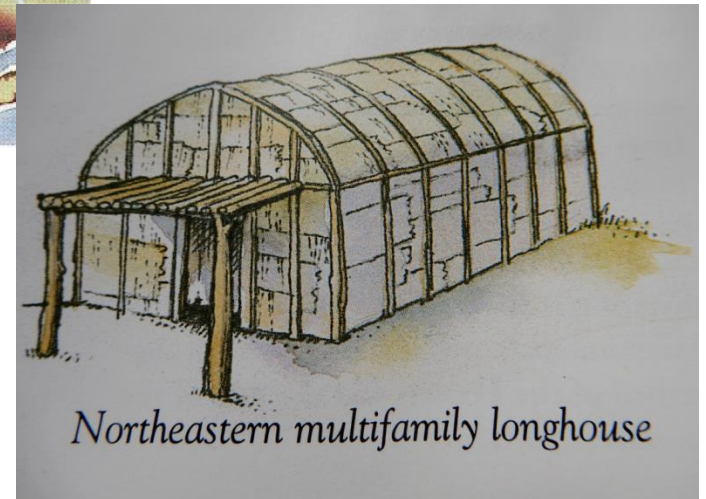
20くらいのたくさんの家族が一つの長屋で暮らすことができます。出入りするドアは、家の端にあるだけで、従って、人々は真ん中にある通路を使って歩いていき、別々となった自分たちの“部屋”に入ります。

THE PEOPLE OF THE LONGHOUSE

5つの部族の指導者は、“倒れて掛かっている木でも、彼らを引き裂くことはできないほど固く手を結ぶ”ことに同意しました。これらの部族は、カユーガ族、モーホーク族、オノンドーガ族、オナイダ族、そして、セネカ族でした。彼らは、一緒になってイロコイ同盟を作ったのです。（後にタスカローラ族が、これに加わり、6つの部族となりました。）



イロコイの人々は、自分たちのことをPeople of the Longhouse、あるいは、People of the Five Fireと呼びました。彼らは、後に、合衆国の13の最初の植民地となり、People of the Thirteen Firesと呼びました。



Northeastern multifamily longhouse

TRADE NETWORKS





Green Corn Festival

トウモロコシの鞘で出来たイロコイのマスク。こうしたマスクが、年の初めに、その年の豊作を祈るために催された儀式で、踊り手が被っていた。

- ▲ イロコイの男がカヌーを漕いでいる。こうしたカヌーは、25フィートくらいの長さがあった。枠はスギで作られていて、周りカバーは、シラカンバの樹皮でできており、枠に縫い合わされ、樹から取れた樹脂で防水されていた。

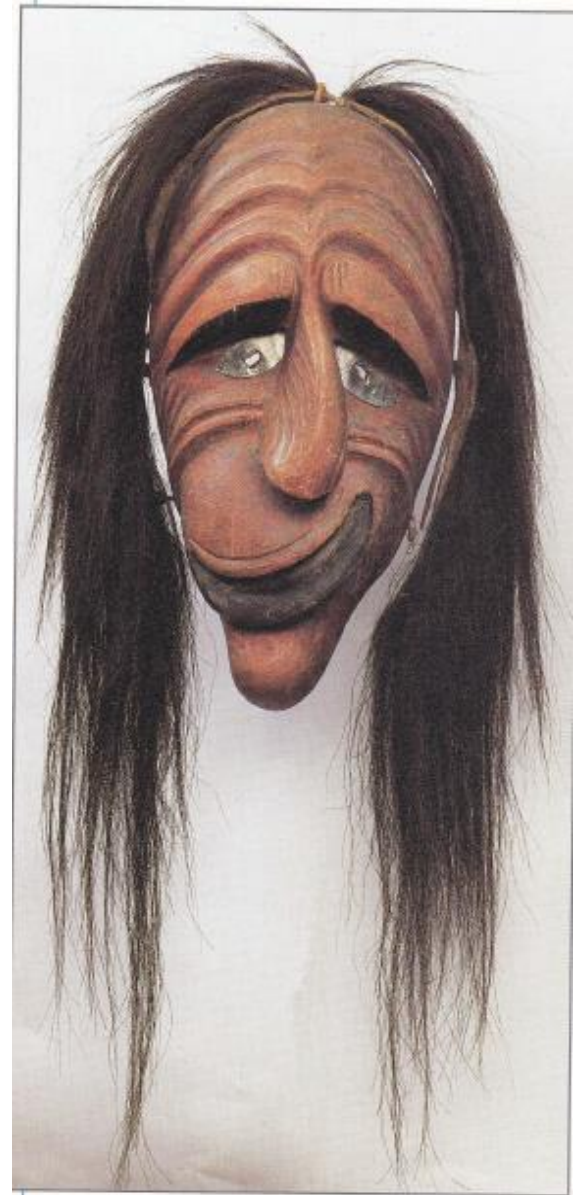
False Faces

代表的な聖霊

複雑に彫刻された木の面を被り、病氣の人がいる家に入り込んで行った。彼らは、ポキンと切られた亀の甲でできたガラガラを叩きながら、奇妙な、そして、いささか、神聖じみた音を立て、そして、その病氣を引き起こしている聖霊を追いやろうと、その病人の上に灰を撒き散らしていました。

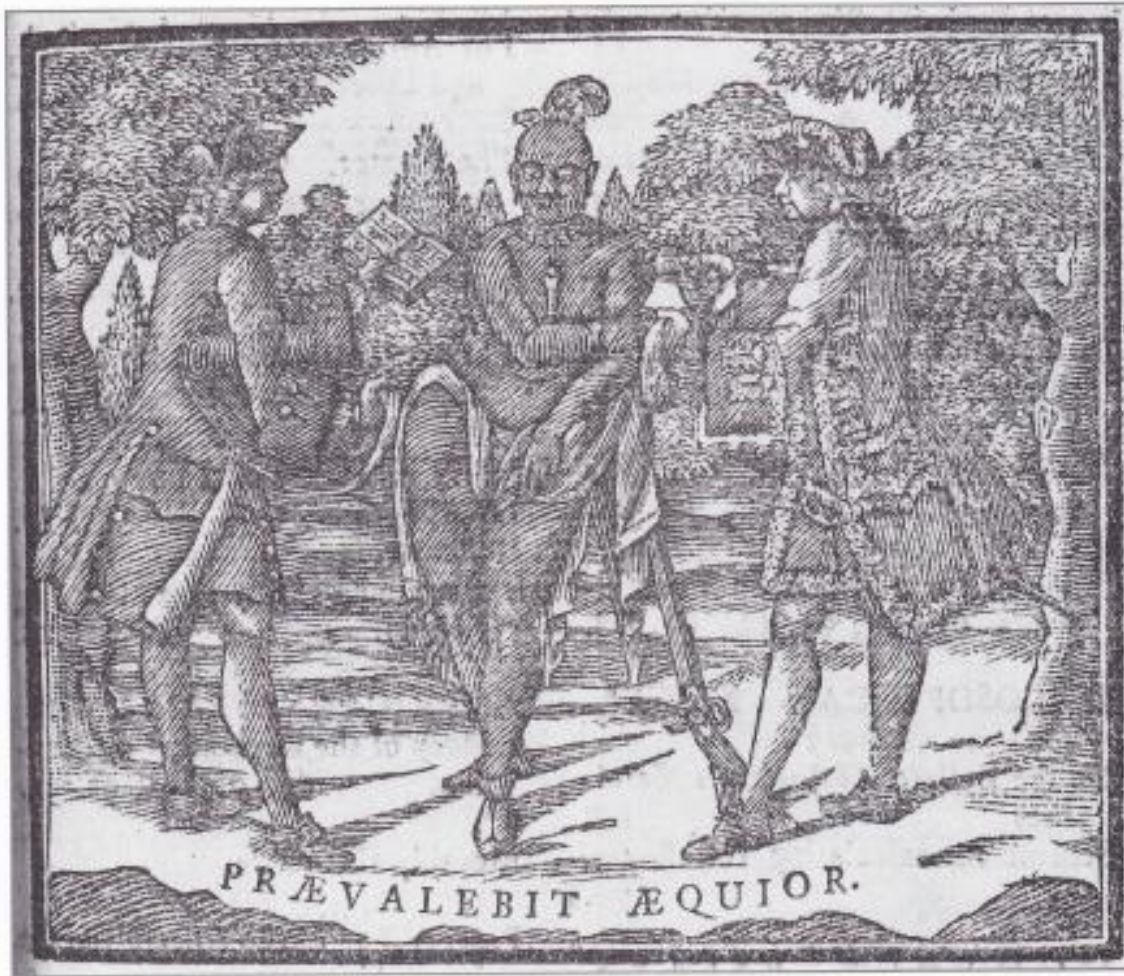
偉大なる聖霊よ、我々に耳をかた向けたまえ
我々は、貴女の偉大なる恵みに対し、
母を授かり、そして、台地を産み、
我々に再び、彼女の実りを
もたらしたてくれた
ことに感謝します。

偉大なる聖霊よ、ここの会議に、男も、そして、女も老人を、
そして、強靱な戦士たちを、
女や子供たちも集まり、そして、
声を一つにして感謝の意を
あなたに捧げます



カユーガのFalse Faceの面

フランス、そして、イギリスとの同盟関係



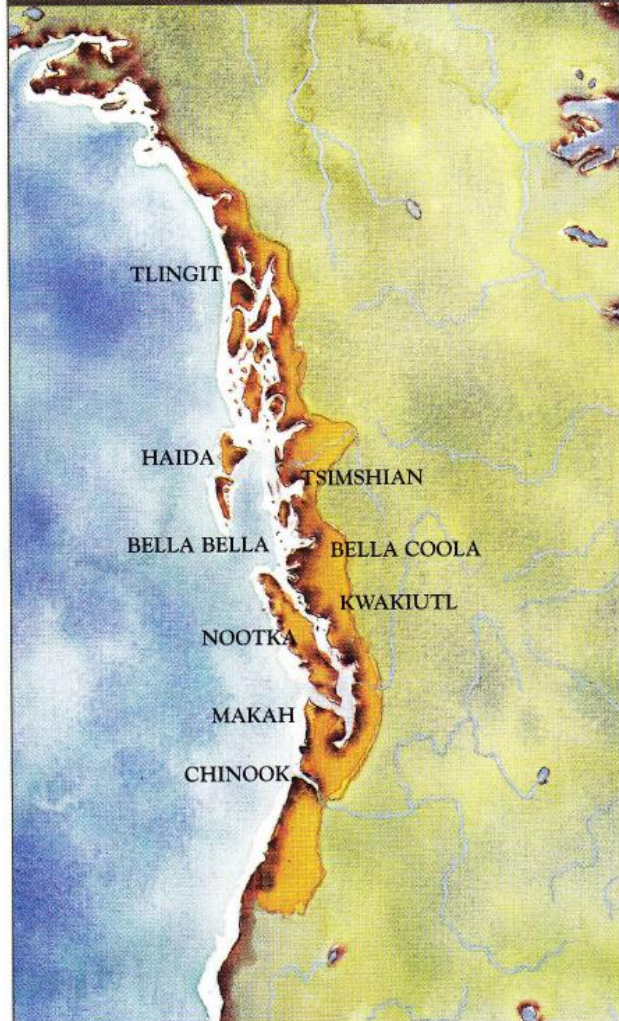
フランスとインディアンとの戦争が終結する直前の1758年に作られたこの木版画は、インディアンの忠誠を求めているイギリスとフランスを表したものです

フランス、彼らは、東部カナダに居住していたインディアンの部族、ヒューロン族やアルゴキン族と同盟しました。英国は、強力なイロコイ同盟部族と同盟関係を作りました。

最初のうちは、この英国とフランスの対抗意識は、インディアンの同盟者たちには有益なものでした。最初のうちは、この英国とフランスの対抗意識は、インディアンの同盟者たちには有益なものでした。

1689と、1763年に英国とフランスはアメリカで4回にわたりたいへんな戦争、これは結局は英国に勝利をもたらしましたが、を起こしたのです。こうした戦闘で沢山の戦士がなくなり、ヒューロン族やアルゴキン族は破壊されてしまい、そして、イロコイ同盟は、事実上、消滅したのです。

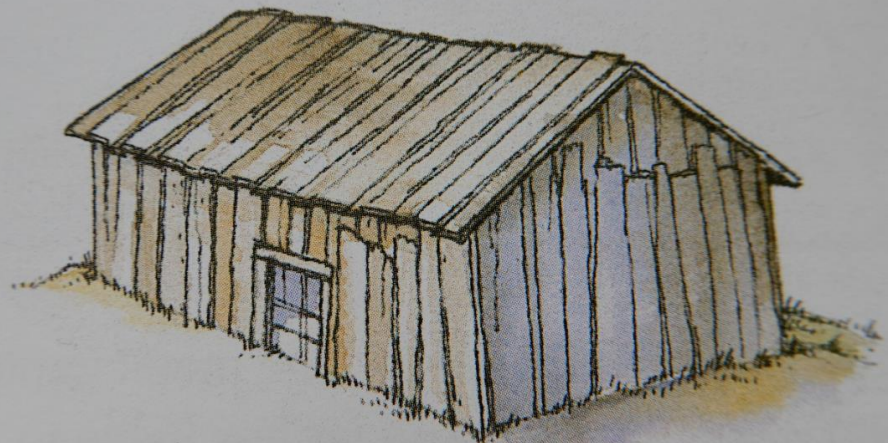
THE NORTHWEST REGION
AND SOME SELECTED TRIBES



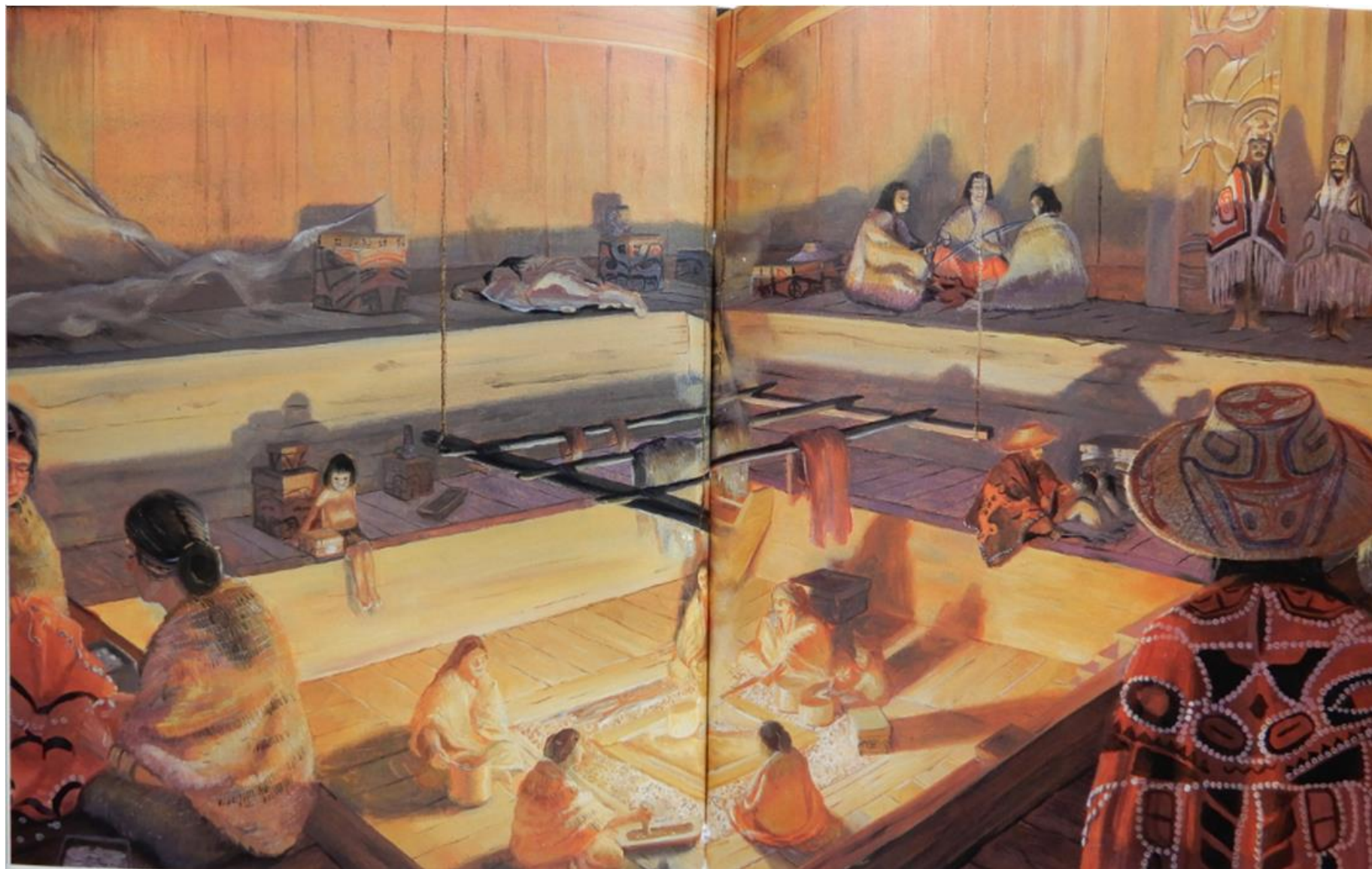
THE NORTHWEST:
A HAIDA PLANKHOUSE



ハイダ族の木造家屋

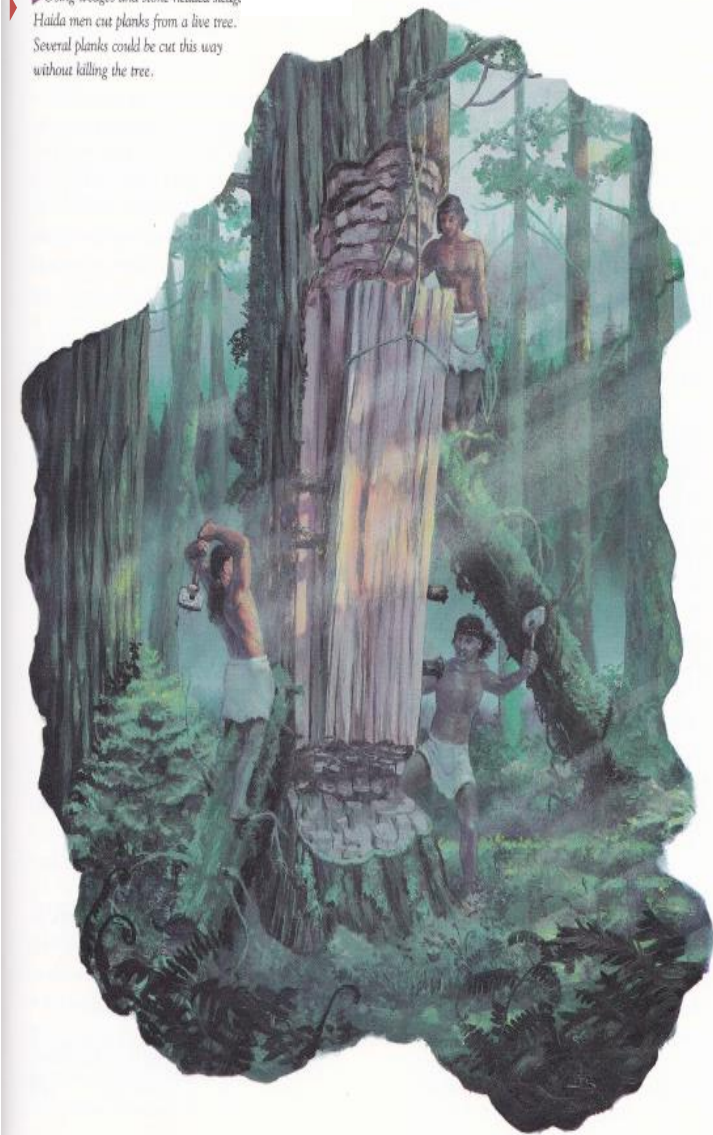


Northwest Coast multifamily plank house



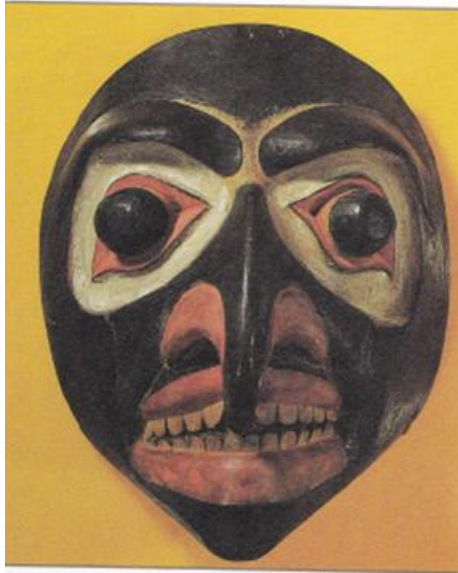
家のなかで一番低い立場の人は、囲炉裏の直ぐそばのこの一番下の床に住んでいます。一番上の床、ここは外の大地と同じ高さなのですが、ここには、この家の持ち主や、その他、由緒在る人が住んでいます。

▶ Using wedges and stone-headed sleds
Haida men cut planks from a live tree.
Several planks could be cut this way
without killing the tree.



クサビと石の頭を持つ大ハンマーを使って、ハイダ族の男達は、生きている樹木から板材を切り出していた。数枚の板材が、こうして、木が生きたまま、切り出されることができた。

木工については、インディアン達は、エンピツバクシン、これは、その領域に無数に生えているものでしたが、これを好んで使いました。エンピツバクシンは、とても大きな森林をつくれます。その木は、軽く、そして、強靱で、なかなか腐ることがありませんでした。石や木材で出来た道具で、家の壁として使うのにもってこいの大きくて、薄くて大きな平板に簡単にそぐことが出来ました



魚の顔の代表を示すハイダ族のマスク



ハイダ族のサメの身につけるもの。頭は、マスクとして被られ、背中と鰭は、ベルトで、踊り手の体に取り付けられた。



ハイダ族の頭につける鹿のマスク



クワキウトル族のワタリカラスのマスク



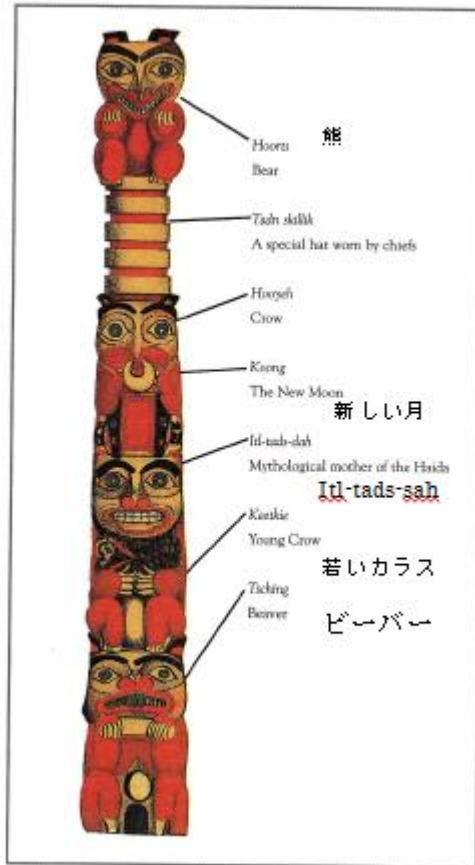
ハイダ族のマダラハヤブサのマスクで、羽根で装飾されている



ベラベラのマスク、一部が人間で、一部が鷲

TOTEM POLES

トーテムポール



ここで示されたポールはハイダ族の家のドアとして作ったもの

ドアはビーバーの上の彼の頭のうえに

Itl-tads-dah、これは、ハイダ族の神話上の母

カラスはそのくちばしに新しい月をくわえているカラス
の上の輪は、ハイダ族の酋長が被っている帽子

帽子

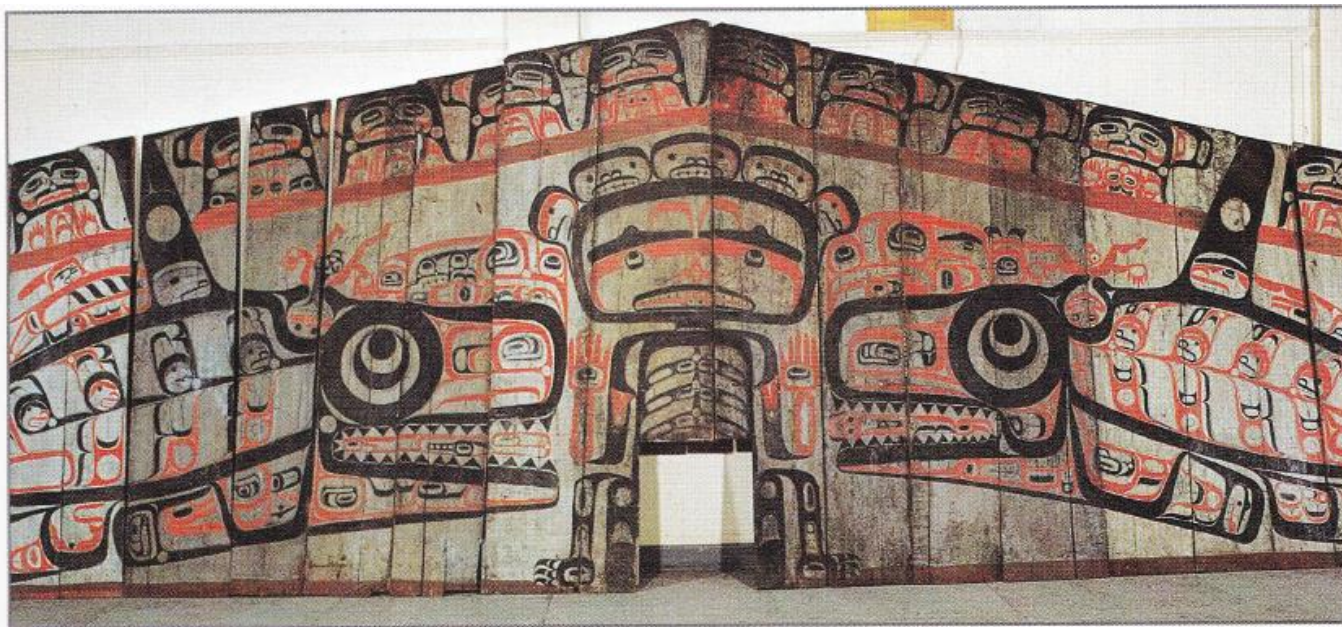
伝説

その一番上に熊、どうしてビーバーが月を食べたのか、そして、それを見て、Itl-tads-dahが新しい月を見つけるためにカラスを使いに出し、そして、それをくちばしに挟んで持って帰ってきたということを話しています。一方、熊は、全てのことがうまくいったことを見ているのです。



自作のトーテムポール





この家の前面は、主島のハイダ族の隣の部族、ツィムシアン族により作られたもの。そこには、Naquanaks、ツィムシアン族の“海の酋長”の姿がドアの表に、両方に鯨を従えて描かれている。

夫々の家の前には、大きなトーテムポールが立っていた。そこに彫られているものは、訪問者に対して、その家に住んでいる人々の血族を物語っていた。普通の血族の一番上に付けられたものワタリガラス、これは、鯨とかシャチ、さらには、鷲を殺すものであった。



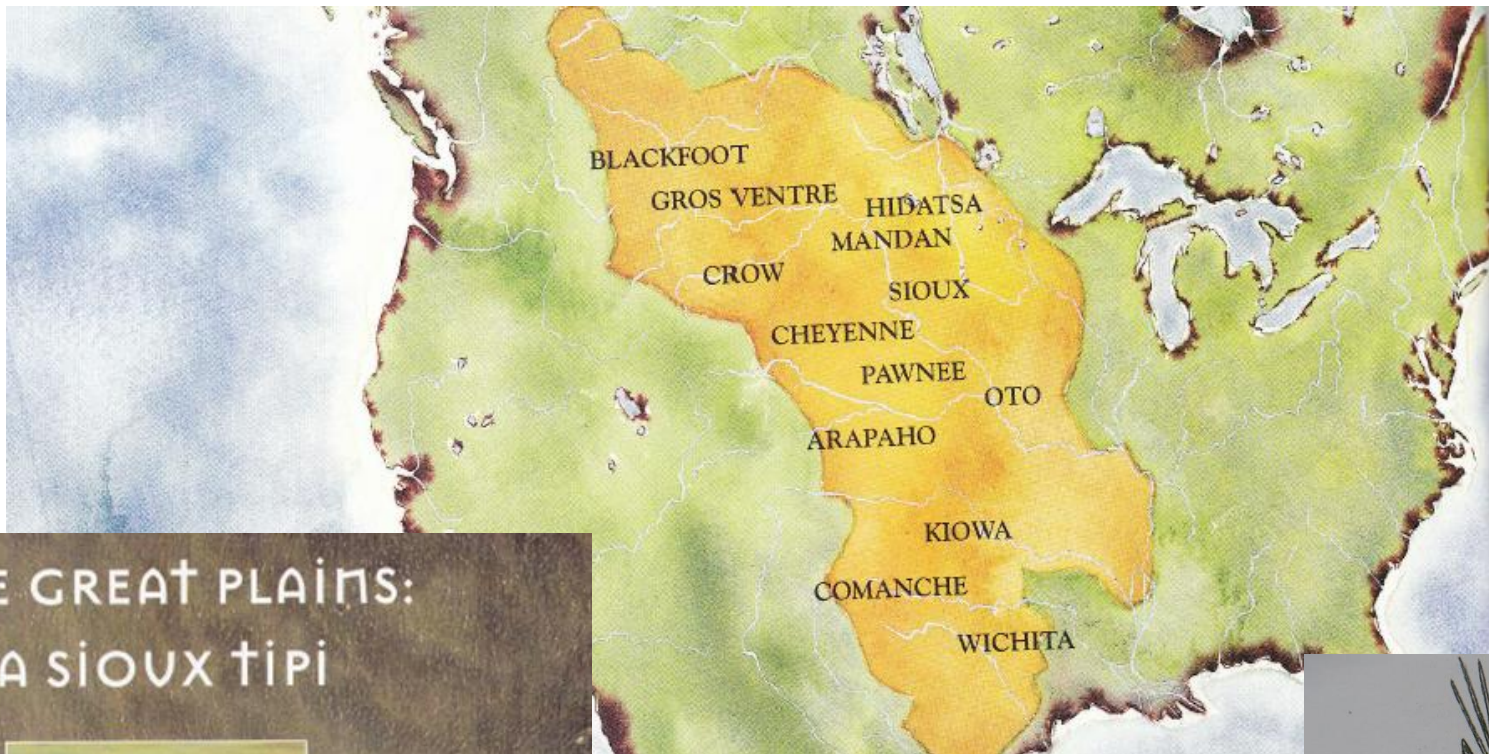
POTLATCH (ポトラッチ) BY FAITH WILLIAMS



インディアンの人達が食料を共有しているもっと重要なやり方の一つが、ポトラッチの場です。ポトラッチは、食料と、踊りとで、お互いに褒め称えながら、そして、一緒になりお祝いをするための部族の集まりなのです。



THE GREAT PLAINS AND SOME SELECTED TRIBES



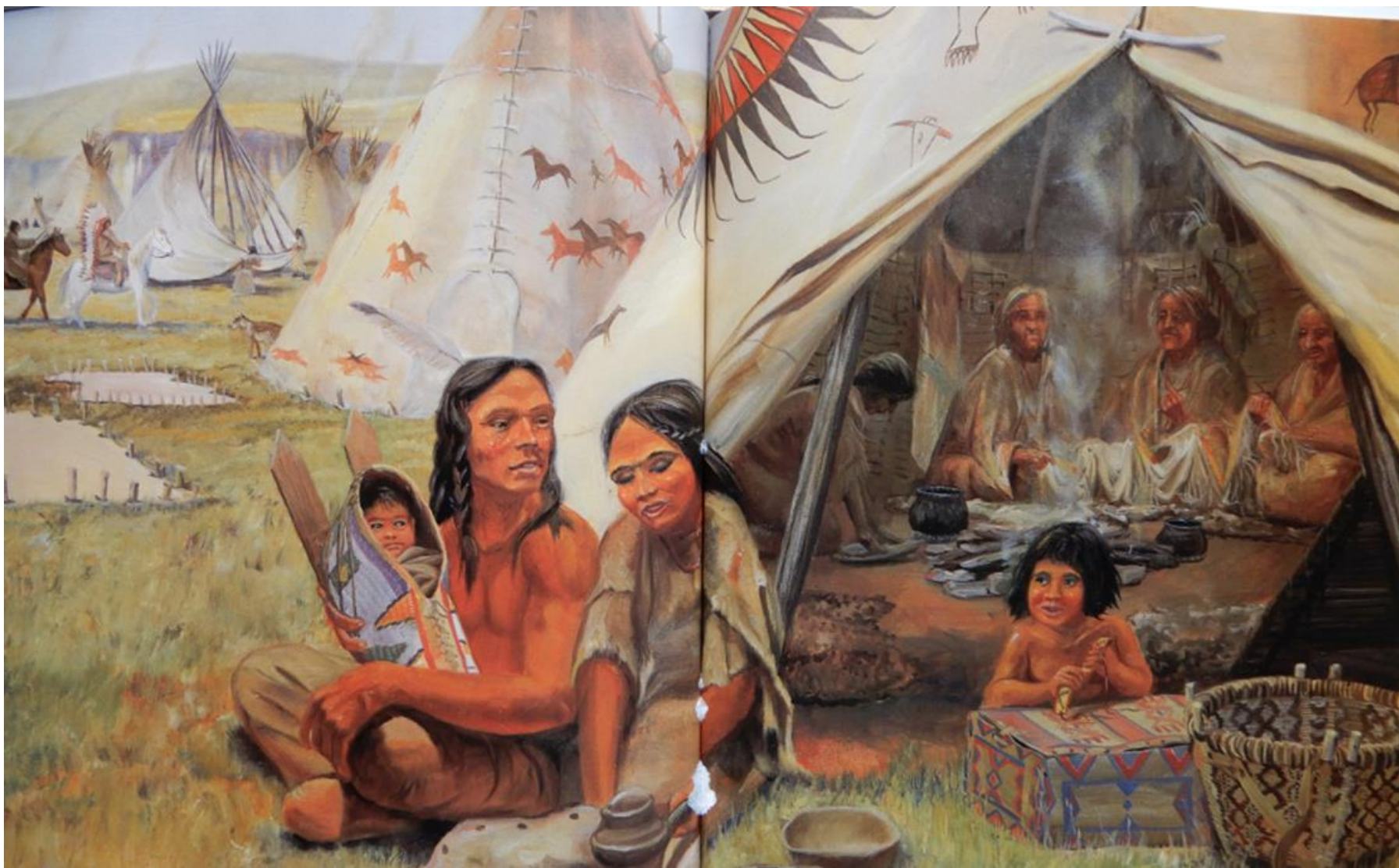
THE GREAT PLAINS: A SIOUX tipi



大平原：
スー族のティピー



Plains buffalo hide tipi



大平原でのスー族のキャンプ。ティピーの中に、年取った女たちの集団がヤマアラシの針を乾かす仕事をして座っている。外では、一人の女が、別の者がビーズで装飾された揺り籠で赤ん坊をあやしている間、動物の毛皮でできた皿の中でイチゴを潰している。



大平原のインディアン達の信仰の生活の多くは、バッファローを中心にして動いていた。彼らが亡くなったときには、あの世では、バッファローたちで溢れた場所に行くと考えられていた。沢山のインディアン達が、天の川ー夜空の空を支配している星達の通った道ーが、魂の世界でバッファローの大群により巻き上げられた粉塵であるという信仰を持ったいた



▲ 四つの堂々とした羽根の頭被り 左から右へ： アラパホ族、ブラックフット族、シャイアン族、そして、スー族のもの。

手柄は、coup(“coo”クーと発音、大成功)と呼ばれ、スー族やその他の大平原の部族の間で、“coupの数进行数えること”として知られた一連の戦闘の名誉のうちの一つであった。

クーを数えることにより、戦士は、彼らの戦闘用の羽根で飾った帽子に鷲の羽根を飾る権利を取得していた。



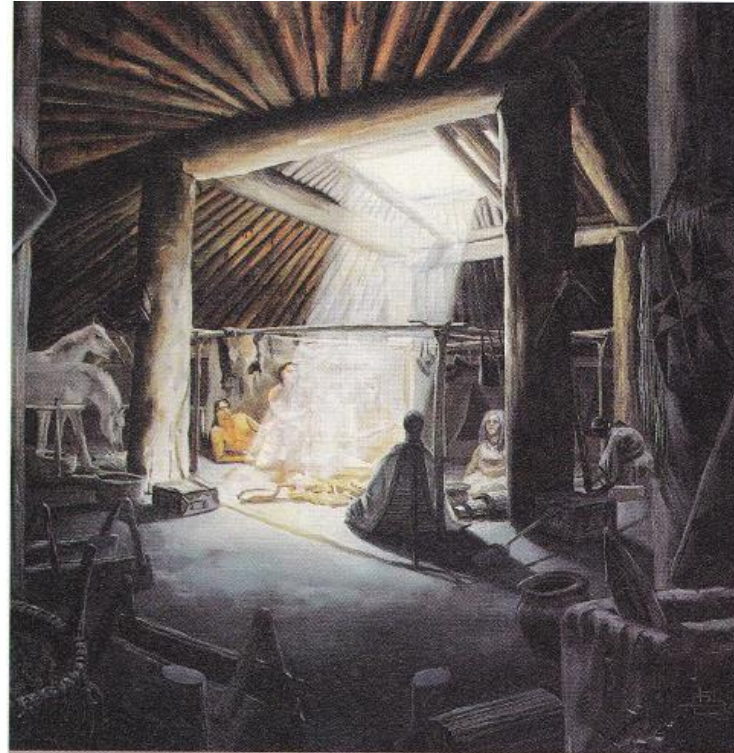
馬と銃



スー族とか、シャイアン族、そして、クロー族といった部族が、東から鉄砲を、そして、西から馬を調達した。その結果、馬に乗った草原の戦士が生まれた。

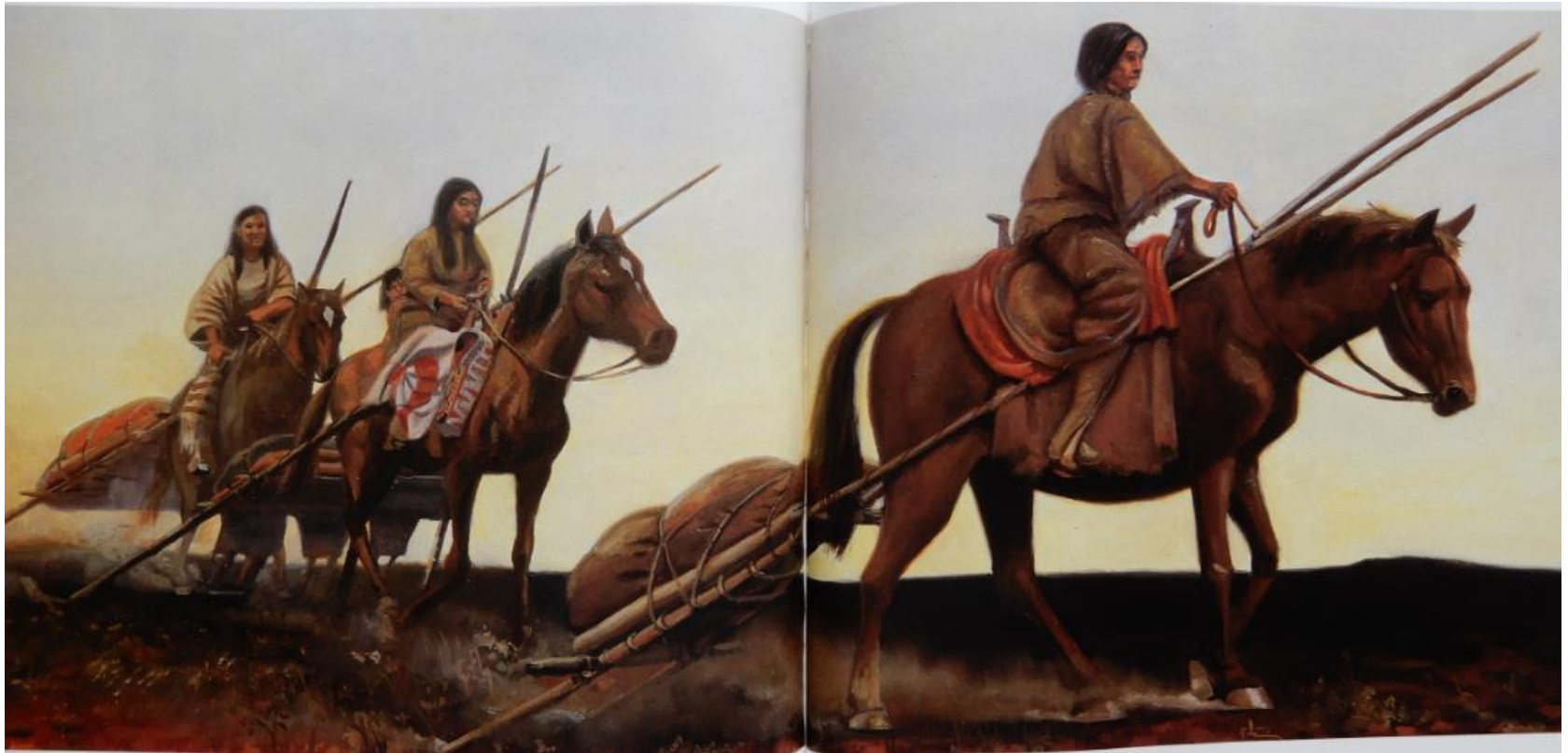
Columbusは、1493年の二度目の航海でアメリカに25頭の馬を持ち込んだ

大草原の土の家



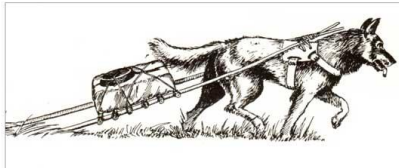
The inside of a Mandan earth lodge had enough space for several families and their belongings—and even for horses. In the foreground of this picture are wooden saddles. In the center, a family sits around the fireplace. Smoke from the fire escapes—and light enters—through a hole in the roof.

厚い土の壁は、冬は、この土の家全体を温かくし、夏にはとても涼しかったのです。屋根の上は、トウモロコシを干すのに使われ、そして、家族の者が暑い夏の夕暮れにその上に座って過ごす台となっていた



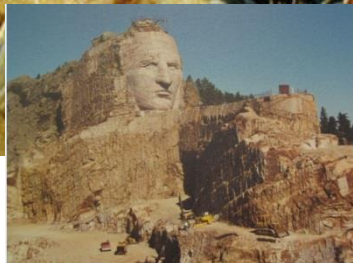
トラボイ “truh-VOY” と発音

場所から場所に移動するときに、スー族やその他の平原のインディアン建ちは、彼らの荷物をティピーの柱で作ったトラボイの上に寄せ、馬に引かせて運んでいた。



THE CUSTER FIGHT

1876年の6月25日に、シッティングブル、クレージーホース、ガル、ならびに、その他のものの指導の下、スー族とシャイアン族は、副官大佐のGeorge Armstrong Custerに指揮された第7騎兵隊に対して、徹底的な勝利を納めた。Custerを含め、200名の兵士がその日に殺された。



POWWOW

クロー族の言葉では、bassaxxbuluaで、これは、“音をたてる”



THE SUBARCTIC REGION AND SOME SELECTED TRIBES

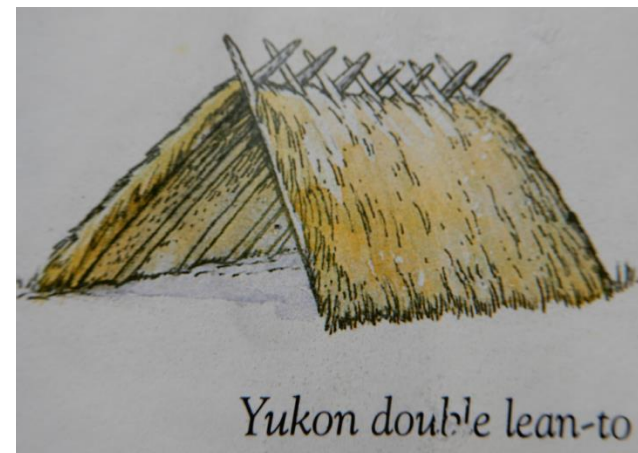


Algonquian mat or bark wigwam

THE SUBARCTIC: AN ATHAPASKAN SKIN WIGWAM



アスバスカン族の皮のイグナム



Yukon double lean-to



こじんまりしたドーム形の小屋は、何本かの木の柱で作られており、その頂上が結ばれ、動物の毛皮と樹皮の材料で覆われている。

亜北極の人々は、一年のうちの季節に従って生活をしていた。

アタバスカン族の人達は、彼らの月を“moon”
と呼び、

2月は、“年寄りの月”、冬の遅い時期

4月は、“灰色のガンの月”、

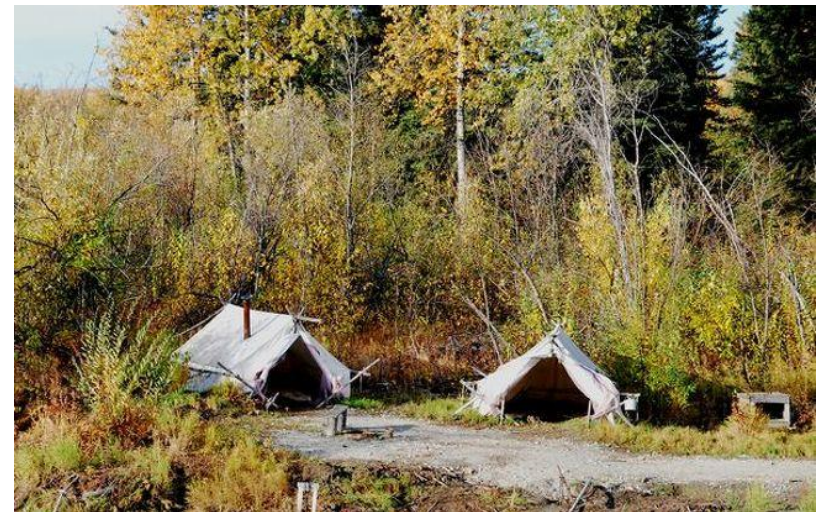
これは、カモやガンが南から戻ってくる時。

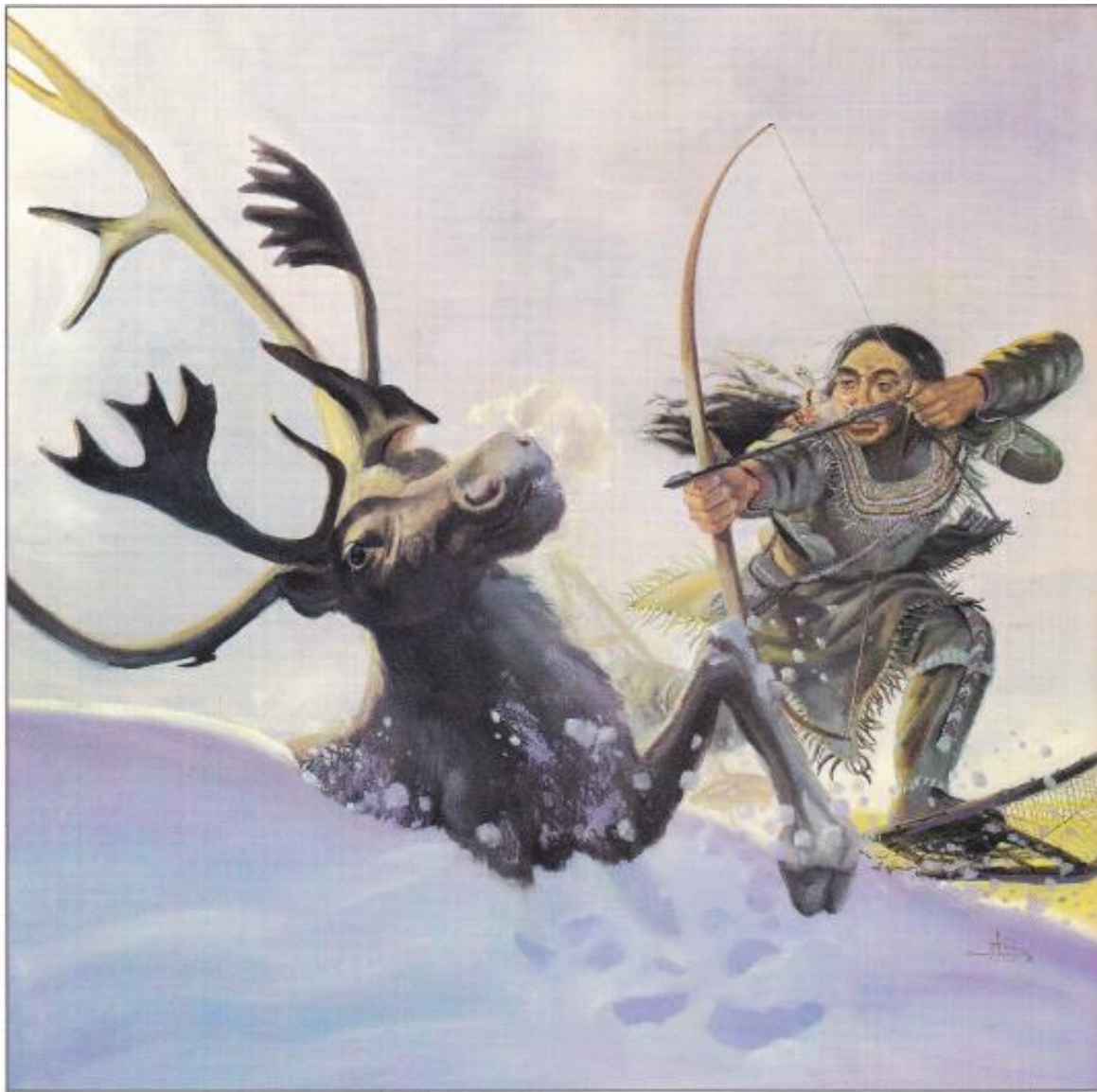
8月は、“若いカモが飛び始める”月

9月は、“キングサーモンの戻ってくる”月

11月は、“川が凍り始める”月

12月は、“ヘラジカが彼らの角を失う頃”

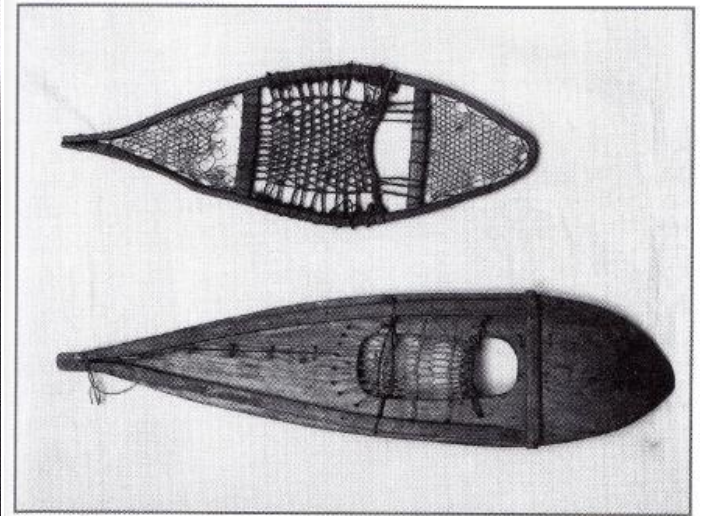




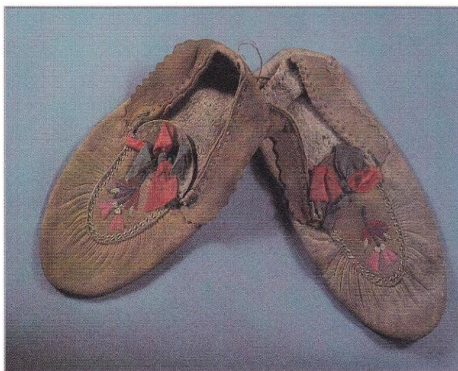
雪靴をはいたクチキン族の狩人がカリブーを深い雪に追い込んでいる



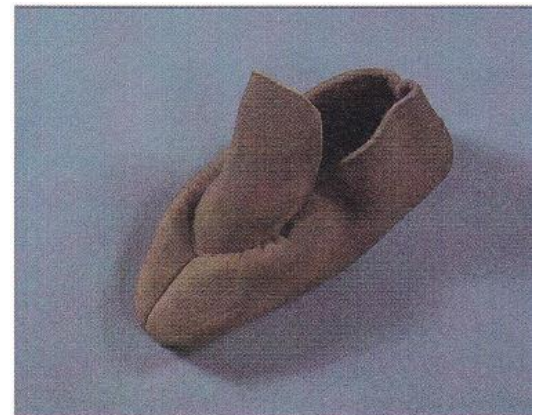
← クリー族の狩猟用の服



クリー族の雪靴

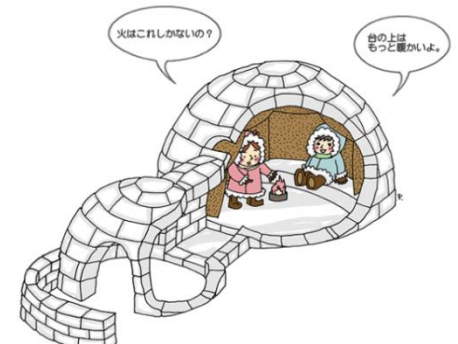
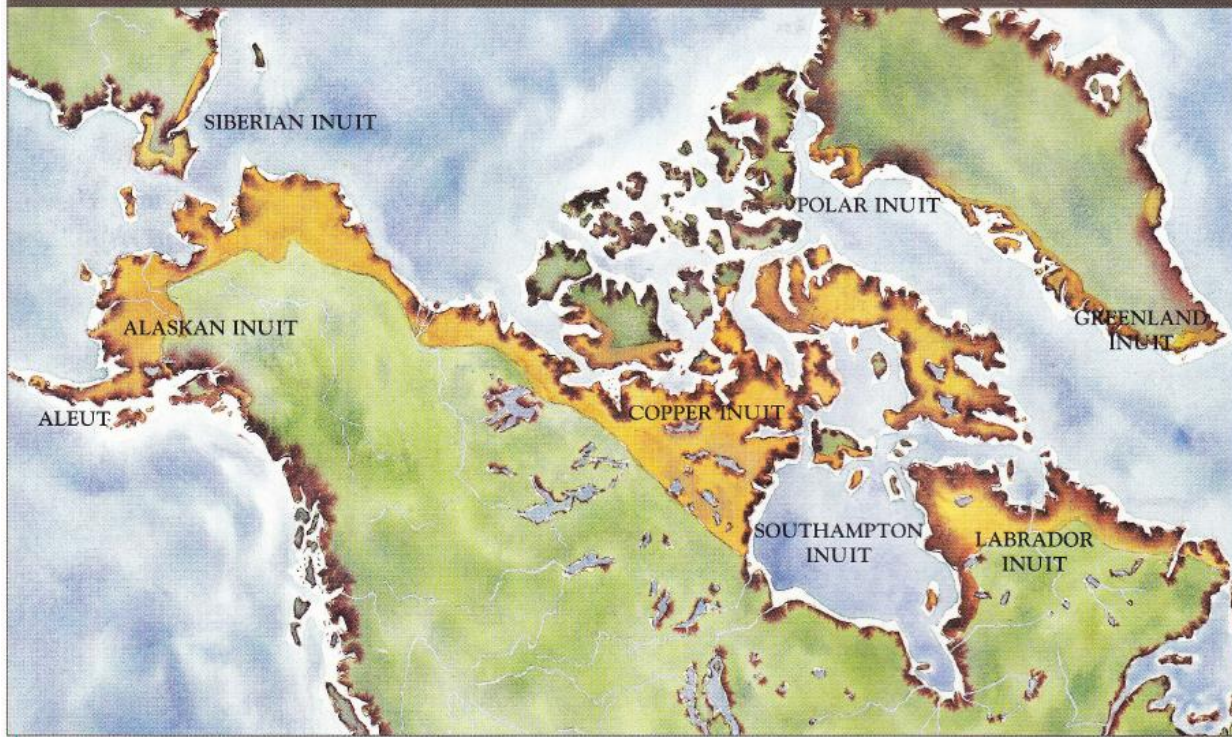


クリー族のモカシンとミトン



モンタニエ族の子供のモカシン

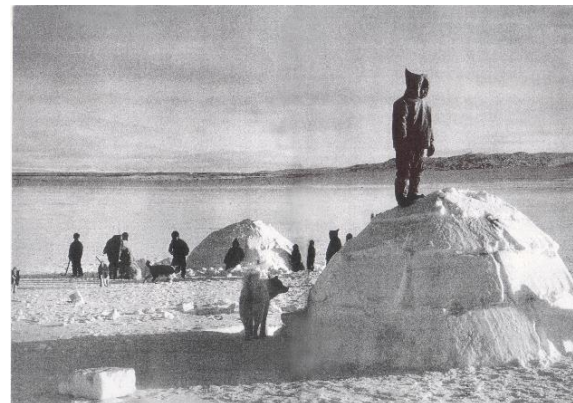
THE ARCTIC REGION AND SOME SELECTED BANDS



THE ARCTIC AN INUIT ICE IGLOO



イヌイトのイグルー

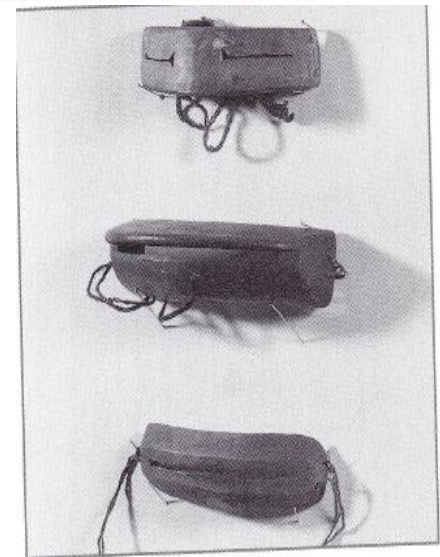
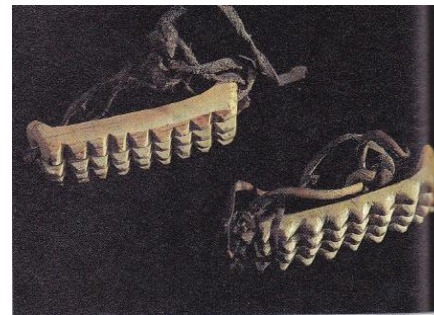




アラスカのアザラシの腸から作られてパーカ



アラスカの氷の上を這う靴



イヌイットのゴーグル





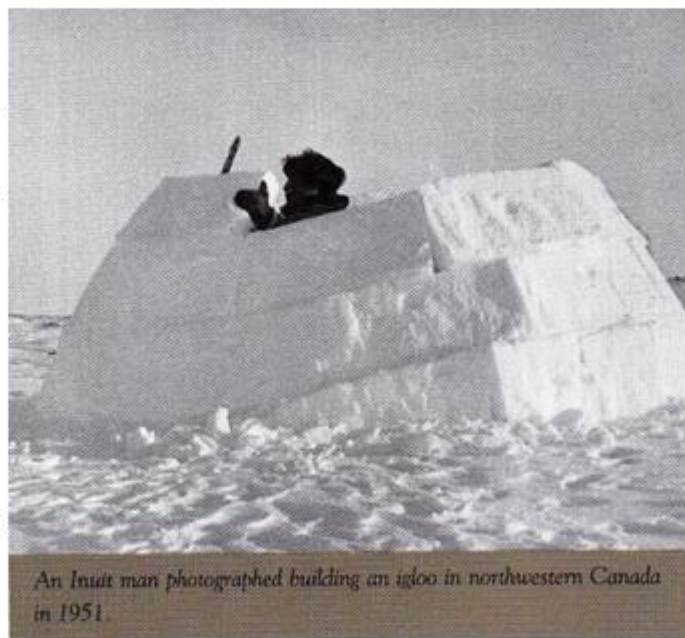
イヌイットの狩人がアザラシの穴のそばで辛抱強く待っている。彼に横にあるのは、長い銚(もり)

狩人は、よく、アザラシが出て来るのを待って、そして、ほんの一瞬のうちに銚を打ち込むのです。そのために数時間もじっと動かずにして居なければならなかったのです



イグルーの建設

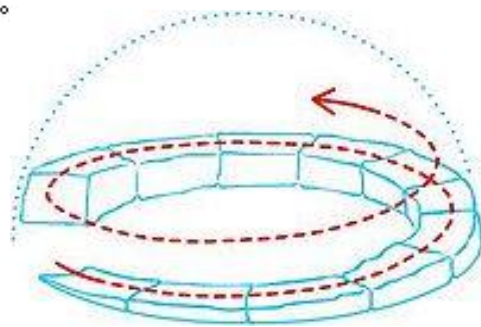
イグルーを建てる人は、一度の嵐によりできた雪の土手からの雪を使っていた。そうすれば、ブロックは同じ材料からできたものになり、同じような性質になったからだ。雪のブロックは、イグルーの壁ができる様に、中側が円に、そして、全てが大体同じような大きさー3から4フィートの長さで、6から8インチくらいの厚みであったが、一にカットされていた。ブロックの一番下の層は、円になるように置かれ、そして、螺旋が始まるような形にカットされた。



ブロックの新しい層が重ねられるときには、それらは、内側に傾けられ、次第にドームの形を作っていた。建てる人は内側に入って壁を作っていた。最後のブロックが置かれると、彼は、自分が外に出られるように壁に穴を開けていた。

こうしてドームが出来上がると、ブロックのつなぎ目には、雪が詰められた。家を完成するために、低い雪道が入り口に付けられた。建てた人と彼の家族は、

腕と膝で這いながらその道を使って家に入って行った。





イヌイットの木製のお皿。内側にトナカイと、神秘的なトナカイ(左に、不思議な、後ろ足と尻尾とで3つに分かれている)が網で繋がっている絵が描かれている。



イヌイットのツノメドリを表している面



アラスカの、三つの小さな牙に彫られた鳥の彫り物。



イヌイットのイヤリング



イヌイットの木箱

部族	呼び名	居住地	名前の由来
ABENAKI	ab-uh-NAHK-ee	北西地域	東部の人
ALEUT	uh-LOOT	北極地方	イヌイトの言葉で“島”
ALGONQUIN	al-GON-kwin	北東地域	
APACHE	uh-PATCH-ee	南西地域	
APAPAHO	uh-PAP-uh-ho	大平原	交易商人
BEAVER	BEE-vuhr	亜北極地方	
BELIA BELLA	bel-uh-BEL-hu	北西地方	
BELIA COOLA	bel-uh KOO-luh	北西地方	
BLACKFOOT	BLAK-foot	大平原	
CADDO	KAD-oh	南西地方	名前は、“酋長”から来ている
CATAWBA	kuh-TAW-buh	南西地方	名前の由来は、“川の人”
CAYUGA	kah-YOO-guh	北東地方	
CHEROKEE	CHER-uh-kee	南東地方	
CHEYENNE	shy-AN	大平原	“不思議な言葉を話す人々”
CHICKASAW	CHIK-uh-saw	南東地方	
CHINOOK	shi-NOOK	北西地方	
CHIPEWYAN	shi-NOOK	亜北極地方	“斑点の皮膚”を意味
CHIPPEWA			
CHOCTAW	XHAHK-taw	南東地方	
CHUMASH	CHOO-mahsh	西部地方	
COMANCHE	kuh-MAN-chee	大平原	
CREE	kree	布北極地方	
CREEK	kreek	南東地方	
CROW	kro	大平原	
DELAWARE	DEL-uh-wear	北東地方	
ESKIMO			
FOX	fahks	北東地方	
GABRIELINO	gah-bree-uh-LEE-no	西部地域	

部族	呼び名	居住地	名前の由来
GROS VENTRE	(gro VAHNT	大平原	フランス語の“大きな腹”。
HAIDA	HY-duh	北東地方	“人々”
HIDATSA	hee-SAHT-sah	大平原	
HOPI	HO-pee	南西地方	名前の意味は、“温厚な人々”
HURON	HYOOR-on	北東地方	
INUIT	IN-oo-it	北極地方	“人間”あるいは、“人々”
KICKAPOO	KICK-uh-poo	北東地方	
KIOWA	KY-uh-wuh	大平原西部地域	
KLAMATH	KLAM-uhth	西部地域	
KOYUKON	koi-yoo-KON	亜北極地方	
KUTCHIN	KOOCH-in	亜北極地方	
KWAKIUTL	kwah-kee-OOT-l	北西地方	名前は、“湖水の北側の浜”
LAKOTA			
MAKAH	muh-KAW	北西地方	
MANDAN	MAN-dan	大平原	
MASSACHUSETT	mas-uh-CHOO-sit	北東地方	“壮大な丘に”の意味
MICMAC	MIK-mak	北東地方	
MIWOK	MEE-wok	西部地域	“人”の意味
MODOC	MO-dahk	西部地域	
MOHAVE	mo-HAH-vee	南西地方	名前は、“三つの山々”
MOHAWK	MO-hawk	北東地方	名前は、“人食い人種”
MONTAGNAIS	mon-tuhn-YAY	亜北極地方	フランス語で、“山男”
NASKAPI	NAS-kuh-pee	亜北極地方	
NATCHEZ	NATCH-iz	南東地方	
NAVAJO	NAV-uh-ho	南西地方	“広大な土地”
NEZ PERCE	nez pehr-SAY	西部地域	“ピアースをした鼻”
NOOTKA	NOOT-kuh	北西地方	
OJIBWA	oh-JIB-wah	北東地方	
ONEIDA	oh-NY-dah	北東地方	

部族	呼び名	居住地	名前の由来
ONONDAGA	ahn-uhn-DAH-guh	北東地方	“丘や山の天辺に”
OTO	OH-toe	大平原	
PAIUTE	PY-oot	西部地域	
PAWNEE	PY-oot	大平原	“角”の意味
PEQUOT	PY-oot	北東地方	意味は、“破壊者”
PIMA	PEE-muh	南西地方	
POMO	PO-mo	西部地域	
SAC	sak	北東地方	
SEMINOLE	SEM-uh-nohl	南東地方	“分離主義者”、“逃亡者”
SENECA	SEN-ih-kuh	北東地方	
SHAWNEE	shaw-NEE	北東地方	名前は、“南方の人”
SHOSHONE	sho-SHO-nee	大平原	“歩く人”、“採掘者”
SIOUX	soo	大平原	<i>Ojibwa</i> の言葉で、“敵”
SLAVE	s layv	亜北極地方	
SUSQUEHANNA	sus-kwuh-HAN-uh	北東地方	
TLINGIT	CLING-git	北西地方	名前は、“人々”
TSIMSHIAN	TSIM-she-uhn	北西地方	
TUSCARORA	tus-kuh-ROR-uh	北西地方	名前は、“麻の採集者”
UTE	yoot	西部地域	
WICHITA	WITCH-i-tah	大平原	
WINNEBAGO	win-uh-BAY-go	北東地方	名前は、“泥水の人”
YELLOWKNIFE	YEL-oh-nife	亜北極地方	
YUMA	YOO-muh	南西地方	
YUROK	YOO-rahk	西部地域	名前は、“川の下流”
ZUNI	ZOO-nee	南西地方	

